

「第3回羽州街道交流会金山大会」報告

去る平成19年6月9日から2日間の日程で第3回羽州街道交流会(金山大会)が開催されました。「羽州街道の魅力をとことん話し合う」をテーマに、地域の街づくり交流連携の輪を広げようと県内外から約110名が参加しました。

初日は、町なか散歩や分科会、そしてお決まりの夜の街道談義で盛り上がり、2日目は「羽州街道に思いをはせる」をテーマに、森合峠や上台峠などを探訪しました。

第一日目

町なか散歩 : 12:45 ~ 14:00

金山は、明治の初期に英国人の女性旅行家イザベラ・バードに「ピラミッド型の丘陵が半円を描いた、非常に美しい風変わりな盆地、ロマンチックな雰囲気のある場所」と称された町です。

今でも当時の面影を随所に忍ぶことが出来、「町並み案内人」のガイドを受けながら金山型住宅や大堰などの散策を楽しみました。



大堰の鯉



金山の町並み

開会セレモニー【中央公民館】: 14:15 ~

・代表幹事 梅津輝雄(七ヶ宿町長)の主催者挨拶に続き、松田金山町長の歓迎の挨拶と吉田山形河川国道事務所長・林王桑折町長より来賓挨拶を頂きました。



梅津代表幹事の挨拶



松田金山町長歓迎の挨拶



吉田所長の挨拶



林王町長の挨拶

分科会 15:00~18:15

第1分科会【蔵史館】 テーマは「羽州街道の美しさ」

・コーディネーター宮原育子氏(宮城大学准教授)の「美しい町並み、山、木、水、石、そしてニラの香りが迎えてくれた町」との印象に続き、三つの宿場町(桑折、上山、金山)で進めてられているユニークな景観整備の事例や苦心談がパネリスト3名より紹介されました。

・松坂忠良氏(町並み案内人リーダー)は地元金山の歴史や杉の話、町並み景観づくり100年運動の紹介を通じ、魅力ある街への思いを時間の経つのを忘れ熱く語っていました。

・上山まちづくり塾長の鈴木正芳氏は、全国街道交流会の上山大会を開催をきっかけに、何も無いところと思っていた街を、外から来た人がみんな素晴らしいところと言ってくれることから地域の魅力を再発見があった。

自分たちの町を良くしたいという思いから黒板堀での景観づくりに取り組み、地域のボランティアや商工会議所観光協会との連携も強まったとのことでした。

・奥州・羽州街道の追分桑折町の林王喜久男町長は、追分に昨年、県の補助を受けてミニ公園が整備がされたこと。ここでは自分の町のPRだけでなく、沿線の市町村のパンフレットも置いて、これからも羽州街道起点の町として役割を担って行きたいとのことでした。

また、将来58宿のサミットと共通の思いを持ち連携、連帯の輪を広げるために、羽州桜を沿道に咲かせようと夢を語られました。



第1分科会パネリストとコーディネーター

第2分科会【丸山邸】 テーマは「羽州街道うまいもの自慢」

・会場となった丸山邸は、そば処として現在も使われていおり、テーマに相応しい雰囲気の中で、島津憲一氏(三宿地域連携協議会事務局長)コーディネーターにより、パネリストのユーモアを交えたお話しにより、会場が和やかな雰囲気の中で進められました。

・戸田義昭氏(横手発酵食文化研究所)は、発酵食品の効果を手品?を交え説明して会場を沸かせてながら、秋田の発酵食文化について紹介するとともに、菅江真澄の絵にもある大屋梅を使った食品を開発し、地域づくりに活かしている事例を大変楽しく紹介して頂きました。

・斉藤文四郎氏(東根市:グループ「風に揺らく紅花 六田宿」代表)は、芭蕉のいでたちで登場し、街道沿いの各戸の庭に紅花を植える活動を通じて、「先人の労苦に思いを馳せ、今あることに感謝、子・孫に伝えていきたい」と地域づくりの心をユーモアを交え熱っぽく語るとともに、グループが企画開発した「紅花入り ふ餅(もち)」を紹介して頂きました。

・丹野益夫氏(上山市榎下:こんにやく番所)は、榎下宿でこんにやくを作り始めたか、なぜ榎下で美味しいこんにやくが出来るかなどの逸話を淡々と語りながら、榎下地区でのこんにやく芋の栽培の取り組みなどのこんにやくを活かした地域づくりの取り組みを紹介して頂きました。

・ゲストの畠腹桂子氏(桑折町女性団体連絡協議会会長)は、ふるさと産品のアンテナショップと観光文化の情報発信拠点として、蔵を改装した「桑折御蔵」をオープンさせた苦労話などパワーポイントで写真を紹介しながら、パネリストに負けない熱意で語って頂きました。



会場となった丸山邸



良い雰囲気でしょう！

第3分科会 交流館サロン「ばすと」 テーマは「羽州街道歩きの楽しさ」

・コーディネーターの鏡啓記氏（羽州街道交流会代表幹事）と3人パネラーが街道歩きの取り組みを紹介するとともに、楽しさについて紹介頂きました。また、会場の設営が円卓を利用するなどの効果なのか？、会場からも意見・質問が出て大変に活発な分科会でした。

・中村弘美氏（矢立自然友の会会長）は、矢立峠散策会を春と秋に開催するとともに、ガイドマップ「矢立峠ガイドマニュアル」作成などを行っています。また、小学校や温泉からの依頼によるガイドツアーも行っており、年に20回も案内するとのこと。説明するより現地の主義で活動を行っている事例を紹介頂きました。

・藤原優太郎氏（あきた山の学校主宰者）は、峠や街道に関する多くの著書があります。昨年は10回に分けて秋田県内の羽州街道を歩く探訪会を実施していますが、失われてきたものへの懐かしさ、峠の向こうのちがう世界のあこがれなど街道歩きの楽しさや魅力を語って頂きました。

・高橋正雄氏（わらじで歩こう七ヶ宿を長年にわたり担当）は、今年で22回になる“わらじで歩こう七ヶ宿”は地域が一体となって、わらじを作りや漬け物などの地域の特産食材を提供するお年寄りなどの楽しみ・充実感というスタッフ側の視点からの楽しさを紹介して頂きました。（今年は絶対に参加するぞと決意しました。）



会場からの眺めも素晴らしい



自由な雰囲気から活発な意見が

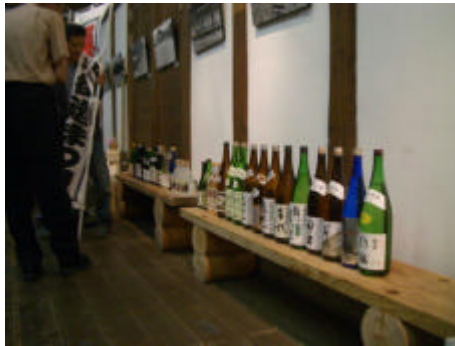
街道談義【蔵史館】18:30~

分かれていた分科会から一同蔵史館に集合。

各地の街道仲間や地元区長会の方々など多数参加されて、手作りのおもてなし料理と、参加の皆さんの持参した地酒に酔いしれながら、会話もはずみ楽しい街道談義があちらこちらで繰り広げられていました。

【料理メニュー】

鯉のあらい(刺身)、地鶏、玉こんにゃく、ワラビの1本漬け、ミズのサラダや鍋、山菜の天ぷら、おにぎり等々



恒例の東北地酒



区長会長挨拶



こころづくしの料理



街道談義会場【蔵史館】

[番外編]

さらに、宿泊場所の【谷口がっこそば】に会場を移し、語り合い、そして飲めや歌え、歌えや踊れの盛り上がりが続きました。



全員で花笠踊り



更に盛り上がり



朝爽やかに集合!

第二日目 平成 19年 6月 10日(日) 9:30~ 13:00

羽州街道探訪会(森合峠・上台峠)

翌日は、先人が切り開いた古の道を、みんなで散策です。天気は晴れ、お弁当と手作りの竹製の水筒が配られ、いざ出発!



これから配ります!

森合峠

初めに、薬師山の西北に通じる明治13年に三島県令が改修した道をたどりながら、森合峠を南下して越えました。

ここでは、羽州街道松並木や田山花袋の文学碑、佐竹義和公の歌碑などの史跡を、所々で交差する羽州街道の痕跡を確認しながら巡りました。

長名水では、手作りの茶屋で団子も振る舞われ、お腹も心も満たされる道すがらでした。



明治の羽州街道を歩く参加者



田山花袋の文学碑



仮設の茶屋で団子

上台峠

次に、新庄側から土台峠へ、イザベラバードが「ロマンチックな雰囲気のある場所」と記した峠からの金山の景色を確認しました。

地元の人たちが、峠には木製のいすを並べたり、街道筋は草刈りをして下さっており、公民館での昼食は、地鶏とミズの鍋やお漬け物が用意され、そのおもてなしにただ感謝するばかりです。



昼食です



皆さん美味しそうです！

昼食後、満足した腹とややくたびれた足を引きずるように太平山に登り、北にまっすぐに伸びる羽州街道と午前中に越えた薬師岳の風景を眺めマイクロバスで中央公民館に戻りました。



イザベラバードの見た金山



最後に公民館前で

その後

みやぎ街道交流会(佐藤、山屋、横山)と羽州街道交流会(鏡、島津、高橋)の6名は、金山町の西田さんの案内で大三輪の美林を見学し、カムロファームで牧場・ナチュラルガーデンを眺めながらのティータイムのひとときを過ごし、グリーンバレー神室の温泉で汗を流してから、別れて帰路につきました。初めての金山、印象に残る素晴らしい街道探訪、交流会でした。

金山の皆さん本当に有り難うございました。